

ふくる通信

The Fukushima tourist information center communication

創刊号
vol.1

小特集

日本銀行 福島支店の軌跡

発行／福島市観光案内所
〒960-8031 福島県福島市栄町1-1
TEL 024-531-6428
FAX 024-531-8165
URL <http://www.f-kankou.jp>
こらんしょふくしま 検索
E-mail kankou@f-kankou.jp



お店の陶器を並べる俊資さん

もともとは地元銀行に勤めていた岡崎俊資さんですが、三十四歳のとき(一九七九年)に、大きな転機が訪れます。置賜町で陶器店を営んでいたお父様が亡くなられ、お店の後継者になることを選択されたのです。周囲からは反対する意見もありましたが、俊資さんは「昔の賑やかな商店街を復活させるためにも、一人ぐらいわつたやつがいてほしいんじゃないか。」との想いのもと、お店を継ぐ決意を固めたといえます。

ふくしま この人・魅力人

地域で活躍する人にスポットをあて、福島市の魅力を発信していくコーナーです。第1回目となる今回は、中心市街地の活性化に取り組む岡崎俊資(おかざきしゅんすけ)さんにお話を伺いました。

そのような中、二〇〇〇年にひとりの女性と出会ったことで、人生で第二の転機が訪れます。茶道具を探し回っているうちに、お店に立ち寄ったその女性は「福島市に十八年間住んでいるが、この店のことはまったく知りませんでした。」と告げたのです。始めはショックを受けた俊資さんでしたが、女性の言葉を真摯に受け止め、店を訪れた感想や気付いた点を率直に話してくれるように頼みました。耳が痛くなるほどの指摘の中から、改善のヒントを探り当てた俊資さんは「地域の人が愛される店づくり」を決意し、三つの仕掛けを実行しました。一つ目は、店頭や店内を美しい季節の花で彩ること。二つ目は、五月から十月までの毎週火曜日、お店の軒先にある木陰で抹茶を振る舞うこと。三つ目は、手芸や写真のほか、様々なジャンルのもので出展するミニギャラリーを併設することです。



ミニギャラリーの説明を受けました

性化に繋がるのが大事なんです。」といえます。俊資さんがお店を継いだ時の想いが現在によみがえります。

問い合わせ／岡崎陶器店
☎ 024(522)0463

日本銀行 福島出張所 (本町一丁目)



開設当時の「日本銀行福島出張所」(明治32年 松と桜貼付帳より)

真の復興に想いを馳せて

各地に未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、人々の平穏な生活を一瞬の内に奪い去り、今なお先行きが不透明な状況にあります。特に私たちが暮らす福島市では、東京電力福島第一原子力発電所事故の風評被害による影響が甚大であり、将来を担う子供とその親たちの生活、本市の基幹産業として先人たちが丹精込めて培ってきた農業、おもてなしの心により今日まで築き上げられてきた観光業などを根底から引き裂き、人々のかけがえのない未来に大きな暗い影を落としました。

この度の福島市観光案内所「ふくる通信」の創刊にあたっては、こうした現実を踏まえながら、私たちが直面した危機的状況を忘れることなく、本市の地域の宝を見つめ直し、その魅力を発信し続けることにより、真の復興に向けていたしたいと考えています。ひとつでも皆様の心に私たちの「観光復興」に対する想いが伝われば幸いです。



「ふくる」とは…「福島に来る」と「福が来る」を掛け合わせた言葉です。福島市にお越しくくださった皆さまに「福」が「来る」事を祈るとともに、福島市の魅力をたくさん知っていただきたいと願います。

こでらんに de ふくしま通 ふくしままち歩きを堪能!

福島市のまち歩きを楽しんでもらうために、福島市の歴史やユニークなスポット、雑学などを案内するのが「こでらんにdeふくしま通 まち歩き」です。5つのコースマップをご用意しておりますので、そぞろ歩きで福島の魅力をご堪能ください。



まち歩きガイドマップ

なお、来年4月からはガイド付きでまち歩きを楽しむことができます(要事前申込)。また、「ふくしま まち歩きガイド」も募集していますので、興味のある方はお問い合わせください。

ふくしままち歩きモデルコース

- 1 昭和の息吹 ～ノスタルジック商店街を歩く～
- 2 奥州街道の賑わい ～活気あふれる江戸口の姿～
- 3 福島市の長い一日 ～幕末・東北戦乱の始まり～
- 4 福島の花街と奥州街道 ～北裡界隈から仙台口を歩く～
- 5 福島城と城下町 ～旧城下町の中心街を巡る～

詳しくは、こでらんに博公式ガイドブックをご覧ください。公式ホームページでご確認ください。

お問合せ：福島市観光コンベンション協会 ☎ 024-531-6432

編集 後記

- たくさんの方々の協力のもと「ふくる通信」を発行することが出来ました。本当にありがとうございました。(ニックネーム: 養蚕に詳しくなった幸)
- 現存している古い建物が少ない福島市ですが、日本銀行の特集をしてみて、在りし日の福島市の様子が垣間見れました。タイムスリップしたような気持ちで街歩きを楽しみました。(ニックネーム: 円盤餃子大好きこく)

- 幼い頃、養蚕を営んでいる農家が1軒あり祖父に手をひかれ行ったことを思い出しました。蚕がこわくて入口から先には進めませんでした。思い出を蘇らせてくれたこの特集に感謝。(ニックネーム: 福島のモモが大好きA)
- 歴史の奥深さに溺れかけました(笑)。助け船を出して下さいました。本当にありがとうございました。タイムマシーンがあったら、明治時代の本町を歩いてみたいな。(ニックネーム: 福島の四季と果物が大好きなM子)

次回予告

次回の特集は、福島市の春を代表する名所「花見山公園」を予定しています。花見山公園二代目園主: 故阿部一郎氏の生涯とともに、これまでの経緯についてご紹介する予定です。

URL: <http://www.ganba-fukushima-tokusan.jp/>

福島市・伊達市・相馬市・二本松市の四市のお薦めお土産品や特産品を集めたネットショップです。自然豊かな福島ならではの旬な果物や、美味しい地場産品を産地直送でお届けしています。ご自宅での取り扱い寄せや、ギフトなどに、ぜひ、「がんばってまっす! 福島WEB特産市」をご利用ください。



「福島WEB特産市」紹介ページ



※銀行員が立ち並び福島出張所当時の口ビー風景。東北経済の要として繁忙を極めた。

たといいます。二階建て土蔵造りのこの店舗は、福島一の生糸問屋だった「万国屋」を改造したものです。当時福島を代表する商人だった青木金治は、日本銀行の誘致活動に特に熱心に取り組んでいました。万国屋はもともと彼が譲り受けたものでしたが、誘致の話が持ち上がると、快く明け渡したといわれています。このように、すぐに出張所としての機能を働かせることができる場所があったことも、誘致に成功した大きな理由の一つです。日本銀行福島出張所の開設により、周りの普通銀行への資金繰りは飛躍的に改善しました。「福島県金融の歩み」によれば、銀行の貸付課長自



福島市のウォール街といわれる「レンガ通り」

地域に親しまれた「日銀福島支店旧店舗」

明治四十四年の支店昇格を機に、当時の新店舗の建設が計画・着工されるにあたり、辰野金吾(日本銀行本店旧館、東京駅舎の設計者)とその高弟の長野宇平治が設計を担当しました。建物の構造が外部に漏れぬよう、木板と簾で周りを覆って建設され、大正二年十二月に完成しました。その建物はレンガ造りで格調高く(レンガは庭坂の専用工場で焼かせたといわれる)、天井からは豪華なシャンデリアが下がり、新調された大金庫は「どんな大盗賊でも金庫破りに十年はかかるだろう」と町の噂になりました。昭和五十三年に取り壊され、その跡地に現店舗の建設が開始されました。当時の代表的な洋風建築の取り壊しに、地元では保存運動が展開



※日本銀行福島支店旧店舗 (1913~1978年)

ら各問屋を歩いてまわり、商人が「二万円必要だ」といえば「三万円使ってくれないか」と頼んだという逸話が残されています。初代所長は土佐藩出身と言われる尾形麟太郎男爵でした。福島で唯一爵位を持つ彼を当時の人々は「福島一偉い人」と呼んで敬いました。民の大きな歓迎の中で営業を始めてから、今年で百十四年を迎えます。その間に支店に昇格し(明治四十四年)、店舗の建物も街並みと共に姿を変え、三代目を数えます。現在の日本銀行福島支店の周りには、時代の波の中で解散や合併を経て現在に至る地方銀行や証券会社、保険会社などが林立しています。歩道をレンガで模様した「レンガ通り」と呼ばれる福島市のウォール街です。日本銀行福島支店は、建物は変わりながらも開業当時と同じ場所から、福島市の歴史を見守り続けています。近代化が進み、街の歴史を感じるものは少なくなりましたが、

の福島市と伊達市周辺は信達地方と呼ばれ、養蚕が盛んに行われていました。風通しと水はけの良い土地は桑の生育に適し、標高が高く良く乾いた阿武隈高地の土地は蚕の生育に最適でした。幕府がこれを奨励し、十八世紀には「奥州蚕種本場」という商標登録を獲得、高級ブランドのように扱われていました。明治時代になると、新政府は列強諸国に対抗し得る為、殖産興業とよばれる様々な政策を打ち出し、世界各国との貿易も頻繁に行うようになりました。間もなく日本の良質な生糸に世界が注目し、外国の商人達がこぞって日本の生糸を買ひ求めました。程なくして、生糸は日本の最大の輸



現在の日本銀行福島支店

チェックポイント解説

- ※① 養蚕が盛ん
信達地方では、蚕種(蚕の卵)の生産、養蚕(蚕を育てる)、生糸の生産、絹織物の生産をそれぞれの地域で個々の特性にあわせて行われていました。その中であつて、当時の福島は蚕種、生糸、絹織物などの一大集散地となつたことから、全国から商人が集まり、流通の拠点となつて活気にあふれていました。明治になり、鉄道が開通してからは、東北各地からも生糸や絹製品が集められ更に発展しました。
- ※② 国立銀行
国立銀行条例によって設立された民間銀行。当初は通貨の発行権を持つていましたが、日本銀行開設により日本銀行が唯一の発券銀行になりました。
- ※③ 中央銀行
日本銀行法によって設立された、国の金融機関の中核となる銀行。通貨の独占発行権を持ちます。日本では唯一、日本銀行がこれにあたります。

小特集 日本銀行福島支店の軌跡

日本銀行と福島町

明治十五年、東京に日本銀行が開業してから、政府が東北で最初に日本銀行の出張所を置いたのはこの福島市(当時は福島町)でした。これは、この街がかつて東北一の商業都市として繁栄していたことを意味します。当時の福島市がどれほど先進的な都市であったのか、その繁栄の礎を築いたものは何だったのかを、日本銀行福島支店の歩みと共に紐解いていきたいと思

世界が目にした生糸

福島市が商業都市として発展した所以は、江戸時代までさかのぼります。当時、現在



錦糸輸送の図
糸市に集まった絹糸は100頭ほどの馬によって、おおよそ10トン近くの糸が福島から京都へと送られた。『蚕飼絹飾大成』より(福島大学図書館蔵)

の福島市と伊達市周辺は信達地方と呼ばれ、養蚕が盛んに行われていました。風通しと水はけの良い土地は桑の生育に適し、標高が高く良く乾いた阿武隈高地の土地は蚕の生育に最適でした。幕府がこれを奨励し、十八世紀には「奥州蚕種本場」という商標登録を獲得、高級ブランドのように扱われていました。明治時代になると、新政府は列強諸国に対抗し得る為、殖産興業とよばれる様々な政策を打ち出し、世界各国との貿易も頻繁に行うようになりました。間もなく日本の良質な生糸に世界が注目し、外国の商人達がこぞって日本の生糸を買ひ求めました。程なくして、生糸は日本の最大の輸

出品となり、かねてより養蚕が盛んに行われていた信達地方はさらにその規模を拡大したため、必然的に商人達は事業拡大を迫られたのです。

銀行の勃興

事業の拡大にはその為の資金が必要になります。福島では、江戸時代から替問屋を営む小野組(京都を中心に生糸の貿易をしていた商人)が中心となり、その業務を請け負っていました。明治七年に小野組が倒産してからは福島市の吉野組が引き受けました。が、急激に増加した福島市の資金需要に対し、吉野組は対応しきれなくなつてしまいました。こうした資金調達の不具合を改善することは、地元の人々の悲願でした。

明治九年、国立銀行条例が改正されると、全国的に国立銀行が設立されました。明治十年には福島でも東北で最初の国立銀行「第六国立銀行」が、明治十一年には「第七国立銀行」が設立されました。福島には近隣の都市と比べ多数の銀行が存在していました。当時の福島町が、いかに商業都市として繁栄していたかが伺えます。しかしながら、全国的な銀行



第七国立銀行の図

1878(明治11)年吉野周太郎ら8人の第百七国立銀行として開業。1897(明治30)年に改称。1913(大正2)年に改築される。昭和3年に休業(『大正博覧会誌』(佐藤克彦蔵 福島県歴史資料館寄託))

の勃興はインフレーションを招きました。その打開策として明治十五年、唯一の中央銀行として東京に「日本銀行」が開業します。その後、日本銀行は大阪に支店を置いたのち、地方の物流を見据えつつ全国的に支店網を整備していきました。

交通網の発達

福島では明治二十年に東北本線(上野-福島-仙台間)が開通。明治三十二年五月には奥羽本線(福島-米沢間)が開通し、福島は東京と宮城、山形を結ぶ重要な拠点となりました。このことが、の






※福島出張所開設当時の福島市内。全国有数の生糸産地として栄え活気にあふれた。

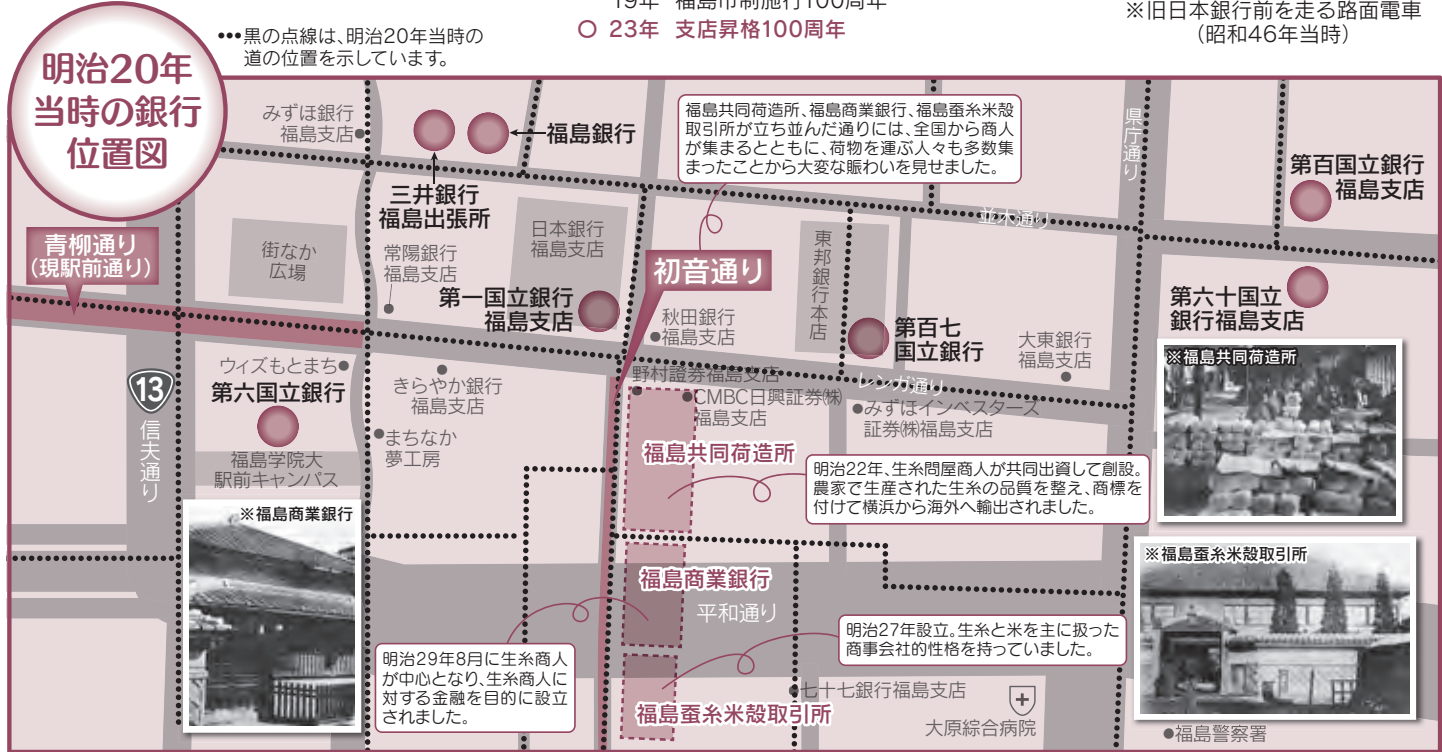
ちに日本銀行福島出張所開設の大きな理由の一つになります。鉄道が通ったことで、更に商取引が活発に行われるようになり、街はますます活気に満ち溢れました。

東北初の日銀開設

かくして明治三十二年七月十五日、東北で最初の日銀店舗「日本銀行福島出張所」が開設されました。当日は「一〇五万円の正金(金貨)が運ばれてくる」と聞きつけた多くの見物客が押し寄せました。ただならぬ緊張感が張り詰める福島駅前通りを、赤い旗を掲げた金箱が十数台も馬車に積まれ、厳重な警備の中運び込まれました。街では開設を祝した花魁道中も行われ、福島中が湧きたっていました。地元の有力量者は「これで名実ともに東北一の経済力となった」と満足気に語つ

ふくしま日銀ものがたり 早わかり年表

<p>■明治</p> <p>10年 第六国立銀行開設 ～明治24年</p> <p>11年 第七国立銀行開設 ～昭和8年</p> <p>13年 福島銀行開設 ～昭和4年</p> <p>○ 15年 日本銀行設立</p> <p>16年 安田銀行福島支店開設 ～みずほ銀行福島支店第一国立銀行福島支店開設 ～明治27年</p> <p>18年 第六国立銀行福島支店開設 ～明治26年</p> <p>19年 第九国立銀行福島支店開設 ～明治23年</p> <p>20年 三井銀行福島出張所開設 ～明治25年</p> <p>22年 共同生糸荷造所設立</p> <p>27年 福島蚕糸米穀取引所設立</p> <p>28年 県内で初めて電灯がともる</p> <p>29年 福島商業銀行開設 ～昭和4年</p> <p>31年 福島県農工銀行開設</p> <p>福相銀行開設 ～昭和3年</p> <p>○ 32年 日本銀行福島出張所開設(管轄東北六県)</p> <p>40年 福島市制施行</p> <p>○ 44年 福島支店に昇格</p> <p>45年 岩代銀行開設 ～大正10年第七銀行へ合併</p> <p>■大正</p> <p>○ 2年 旧店舗完成(辰野金吾、長野宇平治らの設計、農工銀行も同時建築)</p> <p>5年 鈴木実業銀行開設</p> <p>～大正13年福島商業銀行へ合併</p>	<p>7年 山八銀行開設 ～昭和5年常磐銀行へ合併</p> <p>百七貯蓄銀行開設</p> <p>大正11年福島貯蓄銀行に改称</p> <p>昭和19年東邦銀行へ合併</p> <p>12年 関東大震災</p> <p>「福島県金融経済の歩み」より</p> <p>■昭和</p> <p>2年 金融恐慌始まる</p> <p>4年 世界恐慌始まる</p> <p>6年 秋田銀行福島支店開設</p> <p>10年 日本興業銀行東北支店開設</p> <p>常陽銀行誕生(常磐銀行と五十銀行合併)</p> <p>12年 太平洋戦争始まる</p> <p>20年 太平洋戦争終わる</p> <p>21年 東邦銀行本店福島市へ移転(福島支店跡)</p> <p>26年 東邦銀行本店日本興業銀行福島出張所社屋(元第七銀行)に移転</p> <p>福島相互銀行に改称(福島無尽株式会社)</p> <p>大東相互銀行に改称(大東無尽株式会社)</p> <p>福島信用金庫誕生(福陽信用金庫・伊達中央信用金庫合併)</p> <p>51年 旧店舗取壊し開始</p> <p>○ 53年 旧店舗完成</p> <p>○ 55年 現店舗完成</p> <p>■平成</p> <p>元年 福島銀行に商号変更(福島相互銀行)、大東銀行に商号変更(大東相互銀行)</p> <p>19年 福島市制施行100周年</p> <p>○ 23年 支店昇格100周年</p>	 <p>※第七国立銀行(大正13年当時)</p>  <p>※県立農工銀行(昭和6年当時)</p>  <p>※旧日本銀行前を走る路面電車(昭和46年当時)</p>
---	---	---



見どころポイント①

上の地図をご覧くださいと一目瞭然ですが、日本銀行福島出張所が開設される約10年前には、現在の日銀周辺には多くの銀行がありました。当時、どれだけ福島が経済的に繁栄していたかを読み取ることができます。日銀の出張所が東北で初めて福島に開設されたのは、必然的だったことの裏付けともいえます。

見どころポイント②

日本銀行福島出張所が開設され、この地に出張所長の役宅が設置された明治30年代後半以降、役宅への道筋や近隣には大島要三宅、そして松葉館、福島商業倶楽部があり、また改築後の昭和7年の地図には、支店長役宅の南に安田銀行福島支店長宅が見られ、この地に役宅をあてられた理由がわかるような気がします。あくまで推測ですが、その当時の日銀出張所長(支店長)をはじめとする福島の経済や政治に関わる要人が一同に会し、未来の福島の在り方について語り合った場面が多々あったかもしれません。

残念なことに痕跡が残っていない建物等もありますが、当時の様子に想いを馳せ、地図を片手にまち歩きを行うのも一興かと思えます。ぜひ、実際に歩いて「ふくしま日銀ものがたり」をご堪能ください。

小特集 インタビュー

日本銀行福島支店は、一九二一(明治四十四年)の支店昇格から数えて今年で百二年目を迎えます。「世紀余の歴史を誇る日本銀行福島支店は、県経済の歩みを見守り育んできました。そこで今回は、本年五月に第四十二代支店長に就任された中島健至氏に、その役割などについてあらためてお話を伺いました。」



中島健至(なかじま たけし) 支店長

京都府出身。平成元年京都大学経済学部卒業、同年日銀入行。23年5月政策委員会室経営企画課長、本年5月福島支店長に就任。

「あらためて日本銀行福島支店の役割と機能について教えてください。」

中島支店長 基本となるのは、「経済活動に必要なお金が世の中に行きわたり、人々がいつでもどこでも安心してお金を使うことができるようにすること」です。東日本大震災の後、手元にお金を持つておこうという動機から、現金への需要が急激に高まるのが予想されました。預金の残高はあるのに現金が引き出せないという事態が生じないよう、平日・休日を問わず、十分な量の現金供給を行いました。

また、地域の経済や物価の状況を点検するのも大切な仕事です。安心してお金を使ってもらうためには、

「お金の価値」、裏を返せば「物価」が安定していることが重要です。それを調査し確認する作業は、「安心してお金を使うことができる」「環境づくりにも繋がります。」

◎地域との関わりで留意している点などについて伺います。

「お金の価値」、裏を返せば「物価」が安定していることが重要です。それを調査し確認する作業は、「安心してお金を使うことができる」「環境づくりにも繋がります。」

◎地域との関わりで留意している点などについて伺います。



使えなくなったお札の断裁片で作られた野口英世のオブジェ

◎これらの取り組みを進める中、福島市の印象について教えてください。

中島支店長 福島市に赴任して七ヶ月になりますが、「住みやすい街」というのが率直な感想です。これまで地域の様々な分野の方々とお話をする中で、皆さんが復興に向けて、懸命に、そして前向きに取り組んでおられることを実感しています。それに、美味しい果物や野菜、温泉も含めた美しい自然は本場に魅力的です。日本だけでなく世界に自信を持ってPRできるものだと思います。

◎本日はお忙しい中ありがとうございました。

中島支店長 先日も東京や関西の知人に福島市の桃を送ったのですが、「美味しかったので来年も宜しく」と早くも「ご予約」を頂きました。「想像」ではなく「実感」を持ってもらう取り組みを地道に積み重ねていくことに尽きるのではないのでしょうか。福島市に実際に来て頂いて幅広い体験をして頂く機会を少しずつでも増やしていく、そして、その成果を地道に積み上げていくことが、結果的には復興への近道になるのだらうと思います。

◎ありがとうございます。現在、福島市は風評被害で苦しんでいます。震災復興に向けて期待することについてコメントをいただけますでしょうか。

中島支店長 ありがとうございます。現在、福島市は風評被害で苦しんでいます。震災復興に向けて期待することについてコメントをいただけますでしょうか。



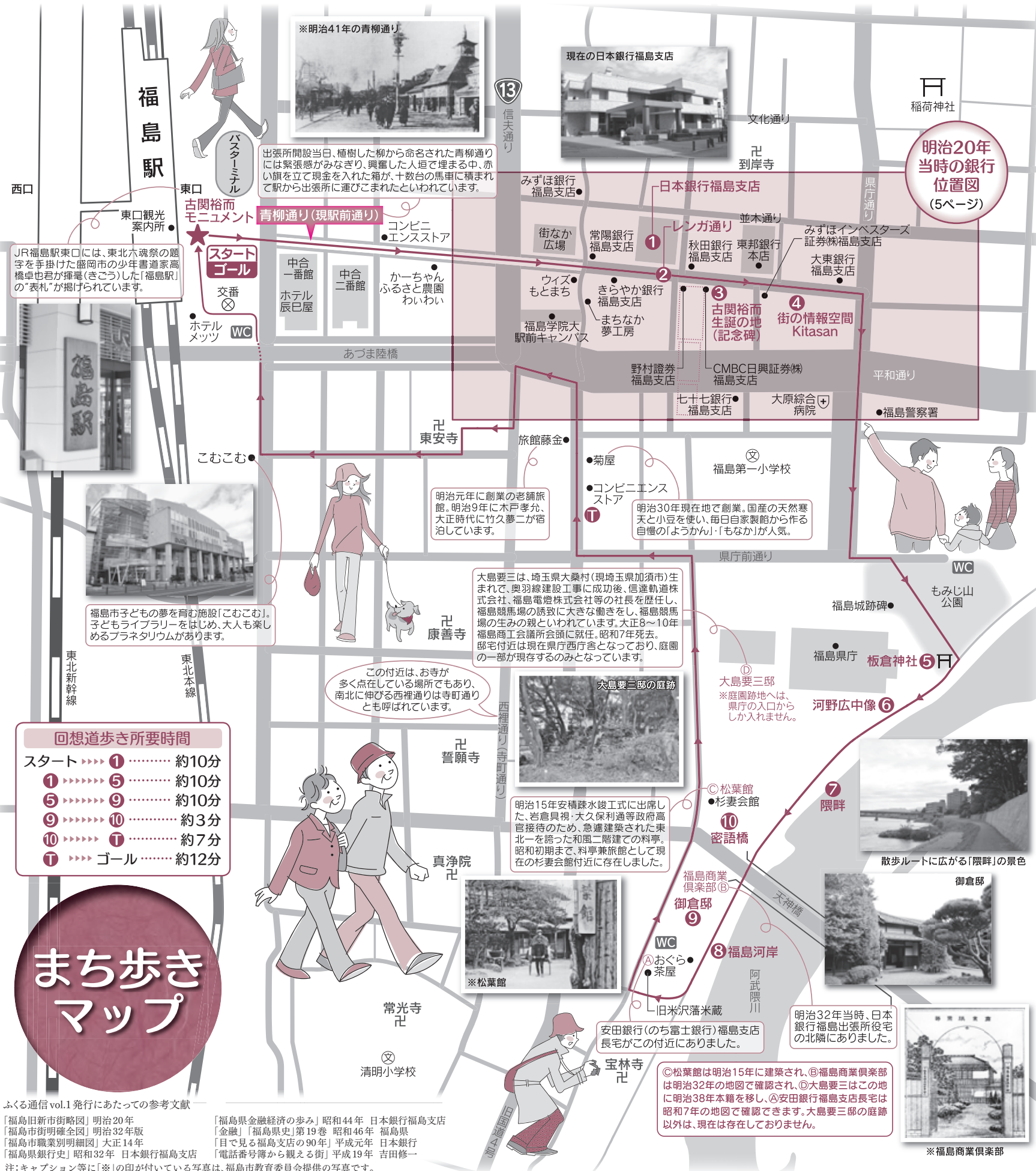
使えなくなったお札の断裁片で作られた新島八重の肖像画

日本銀行福島支店では、皆様に日本銀行の役割や業務を知っていただくため、支店見学を無料で実施しています。

- 見学日時／原則として窓口営業日(月～金)の10時～12時または13時～15時のうち、1時間～1時間30分程度。
- 人数／原則として1団体5名以上で小学生以上の団体。但し、小学生の場合は引率者の同伴をお願いします。
- 見学内容等／1階の窓口見学や日本銀行紹介ビデオの上映、日銀職員の講話ほか。(詳しくはお問い合わせください。)注：見学時に窓口の写真撮影はご遠慮ください。
- 申込み／希望日の1週間前までにお電話でお問い合わせください。(都合により、見学希望日等を調整させていただく場合があります。)
- 見学者名簿／見学日の1週間前までに提出していただきます。
- 予約申込み・お問い合わせ先／日本銀行福島支店 総務課・見学担当 TEL:024-521-6356

ふくしま日銀「日本銀行福島支店から支店長役宅へ」 ものがたり

～歴代支店長が散歩したかもしれない回想道歩き～



回想道歩き所要時間

スタート ▶▶▶▶▶ ①	約10分
① ▶▶▶▶▶ ⑤	約10分
⑤ ▶▶▶▶▶ ⑨	約10分
⑨ ▶▶▶▶▶ ⑩	約3分
⑩ ▶▶▶▶▶ T	約7分
T ▶▶▶▶▶ ゴール	約12分

まち歩きマップ

ふくる通信 vol.1 発行にあたっての参考文献

- 「福島旧新市街路図」明治20年
 - 「福島市街明確全図」明治32年版
 - 「福島市職業別明細図」大正14年
 - 「福島県銀行史」昭和32年 日本銀行福島支店
 - 「福島県金融経済の歩み」昭和44年 日本銀行福島支店
 - 「金融」福島県史第19巻 昭和46年 福島県
 - 「目で見える福島支店の90年」平成元年 日本銀行
 - 「福島県銀行史」昭和32年 日本銀行福島支店
 - 「電話番号簿から観える街」平成19年 吉田修一
- 注：キャプション等に「※」の印が付いている写真は、福島市教育委員会提供の写真です。

① 日本銀行福島支店

日本銀行福島支店は、日本銀行福島出張所として明治32年7月15日、東北地方で最も早く、日本銀行としては7番目の店舗として開設されました。現在の建物は昭和55年に全面改装され、今日に至るまで地域経済の健全な発展を支えています。

② レンガ通り

レンガを敷き詰めたようなデザインが特徴のコミュニティ道路で、ベンチやブロンズ像が整備されています。かつて路面電車が走っていたこともあります。現在は金融機関、証券会社、生命保険会社などが建ち並び、福島の「ウォール街」と呼ばれています。歩道には、路面電車や日本銀行、福島の春の風物詩「雪うさぎ」をあしらったタイルがはめ込まれています。

③ 古関裕而生誕の地(喜多三呉服店)

福島市名誉市民第1号の作曲家 古関裕而さんの生家は呉服屋でした。現在は、レンガ通り沿いに「生誕の地」記念碑が建てられています。9時・12時・15時の3回、さくらんぼ大将、とんがり帽子、阿武隈の歌が流れます。



④ 街の情報空間 kitasan

新鮮野菜やお弁当、地元物産品の販売や街なかの情報提供をしているお店です。福島市と友好交流を結んでいる都市の産品販売もしています。古関裕而さんの生誕100年の年に生家具服店「喜多三」があった大町にオープンしたため、「kitasan」というユニークな名前になりました。営業時間/10:00~19:00 定休日/日曜日

⑤ 板倉神社

板倉家の祖、板倉重昌・重矩を祀った板倉神社は、明治15年にこの地に移されました。ここ板倉神社には、歌人若山牧水が大正5年に福島で「阿武隈のうた」を詠んだ歌の歌碑と、福島市の作曲家古関裕而が作曲した「阿武隈の歌」の譜碑と共に残っています。また、長年愛用した印章に感謝し、その霊を慰め奉納する珍しい供養所「印塚」があります。市民の要望を受けて昭和57年に建設されました。



⑥ 河野広中像

三春出身で自由民権運動の中心となり、東北初の政治結社「石陽社」を明治8年創立。国会開設請願等に活躍。明治14年県議会議長となり、県令三島通庸と対立し、福島事件で捕えられました。後国会に連続14回当選し、衆議院議長となりました。銅像は県会議場に向かって大きく胸を広げています。



⑦ 阿武隈川(隈畔)

福島県庁の近くを穏やかに、時に激しく流れる阿武隈川はかつて舟運が盛んに行われた場所です。現在は隈畔(わいはん)と呼ばれる川辺があります。

⑧ 福島河岸(かし)

荷物の積み降ろしをする船着き場を「河岸」と呼び、阿武隈川舟運の出発点となった福島河岸は、御倉邸付近にありました。御倉邸の南側には福島河岸の船着き場が再現されています。阿武隈川舟運図では、東から城主蔵、御城米蔵、廻米請負業者上総屋幸右衛門船会所、米沢藩蔵がみられます。



⑨ 御倉邸(旧日本銀行支店長役宅)

日本銀行福島出張所開設当時は構内家屋が役宅にあてられていましたが、明治32年10月ここにあった当時の農工銀行頭取所有木造家屋を借用、明治37年7月に購入しました。その後、昭和2年6月に改築し現在に至っています。純和風建築の建物で、戦前の日本銀行の役宅として現存するのは福島と新潟(昭和8年築)の2つだけとなり、とても貴重です。畳廊下やドイツ製の手作りガラス窓が懐かしさを残し、機密文書をしまっていた地下室を備えた蔵などを無料でご見学いただけます。

⑩ 密語橋(ささやきばし)

杉妻会館の西側に位置した堀に架けられていた長さ5間、幅2間の手摺り付きの板橋で、1843年に土橋に替えられたと言われています。現在は杉妻会館庭園内に石橋で再現されています。密語橋には「おろ杉伝説」が伝わっています。

